

第10回小平市史編さん委員会要録

1. 日 時 平成23年10月29日（土） 午後3時00分～午後4時15分
2. 会 場 中央図書館会議室
3. 出席者 市史編さん委員5名（欠席4名）、 事務局10名（職員4名、調査専門委員6名）
4. 傍聴者 2名
5. 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 部長挨拶
 - (3) 委員長代理挨拶
 - (4) 報告
 - ① 平成23年度事業の経過報告について
 - ・事業報告（近世編）
 - ・事業報告（近現代編）
 - ・事業報告（地理・考古・民俗編）
 - ・平成23年度 市史編さん上半期事業報告
 - ② 「市史研究 第4号」の編集について
 - ③ 印刷仕様書（案）について
 - (5) 議事
 - ① 近現代編の目次構成（案）について
 - ② 地理・考古・民俗編の目次構成（案）について
 - ③ 「小平市史料集 第5集」の目次（案）について
 - (6) 閉会

【配布資料】

- ・事業報告（近世編）
- ・事業報告（近現代編）
- ・事業報告（民俗編）
- ・平成23年度 市史編さん上半期事業報告
- ・「小平の歴史を拓くー市史研究ー」第4号の構成

- ・印刷仕様書（案）について
- ・小平市史近現代編の目次構成（案）について
- ・小平市史 執筆要項付則 近現代編で定める事項（案）
- ・小平市史地理・考古・民俗編の目次構成（案）
- ・小平市史地理・考古・民俗編執筆担当者一覧（案）
- ・補記（地理・考古・民俗編）
- ・「小平市史料集 近現代編 第5集 小平の近現代基礎史料」目次構成（案）

<会議の概要>

1 開 会

本日、委員長が、学校行事のため欠席でございますので、副委員長が、小平市史編さん委員会設置要綱第5条第3項に基づき職務を代理させていただきます。

2 部長挨拶

日頃より、ご尽力いただいていることにお礼申し上げます。

本日午前中、総合防災訓練が小金井公園で開催されましたので、私も参加してきました。東日本大震災以後、初めての訓練で、東京都と小平市をはじめ、近隣の小金井市、武蔵野市、西東京市が合同で大規模な訓練でした。また、広域的な応援体制ということで、横浜市、愛知県や海外の防災関係者も参加しており、また、事前にシナリオを参加者に知らせない「ブラインド訓練」もあって、通常の訓練より臨機応変な対応が求められる訓練でした。今後の小平市の防災対策でもより実践的な対応が求められると同時に、市民の方々の自助・共助の仕組みづくり、関係づくりが重要です。そうしたソーシャル・キャピタルの醸成は、今後の重要な課題です。

今回の市史編さんの観点の中にも、市民の暮らし、市民の力強い足跡等についての着眼点があると伺っております。出来上がりが楽しみです。

本日の委員会では、近現代編と地理・考古・民俗編についての目次構成が固まり、ご審議をいただくものです。

ここに至るまでの、委員の皆様にはご尽力をいただき、あらためてお礼を申し上げます。

ご審議の程よろしく申し上げます。

3 副委員長挨拶

今、部長から総合防災訓練について話がありましたが、東日本大震災以降、地域の歴史や文化を確認し、それぞれの地域の方向を探っていく必要性が高まってきていると考えております。市史の編さんが、地域の歴史や文化を表すものとして役立つ市史として発刊されることを願っていますし、そうなると思っています。

議事進行に、皆様のご協力をお願いします。

4 報 告

(1) 平成23年度事業の経過報告について

事務局： 配布資料に基づき、以下3編の事業を報告し、その後、平成23年度市史編さん上半期事業を報告。

- ① 近世編
- ② 近現代編
- ③ 地理・考古・民俗編

(2) 「市史研究第4号」の編集について

事務局： 配布資料に基づき、平成23年度に発行する「市史研究第4号」の内容構成と取組み状況を報告。

(3) 印刷仕様書(案)について

事務局： 配布資料に基づき、平成24年度に発行する市史本編3冊、及び写真集並びに図録について、装丁などの印刷仕様書(案)について示した。本編3冊については、A5判、本文800頁程度、布クロス表紙、校正を5回以上行うこと。

図録、写真集については、A4判、本文200頁程度、アートポスト表紙、本文校正3回、色校正2回行うこと。などを確認した。

質疑等： 地理・考古・民俗編の納期について、平成25年2月29日の納期限を、1か月遅くして3月31日としてほしい。

副委員長： 他委員からも納期変更とのご意見がありますので、変更をお願いしたい。

事務局： 納期変更を了承。

5 議 事

(1) 近現代編の目次構成(案)について

監修者： 配布資料に沿って、概要を説明。構成は、大きく戦前と戦後に分け、テーマとして、「改良」と「開発」に的を絞った。また、各章に「暮らしを支える仕組み」の節を設け、他の市史では、戦争、郊外化などと「暮らし」が別々に論じられていたものを、それぞれの節ごとに関連付けて論じ、目次構成を行った。

副委員長： 特に異論が無いようですので、資料の内容でお願いします。

(2) 地理・考古・民俗編の目次構成(案)について

監修者： 配布資料に沿って、概要を説明。地理編は、災害について新たに節

を設けたい。本日は口頭で了承をいただきたい。詳細についての訂正版は、3月の委員会で報告いたします。

考古編は、鈴木遺跡が8割以上となる。その性格上ともすれば報告書的なものになりがちであり、委員からもそのようなご意見があったため、歴史の流れが分かり、市民が読みやすく分かり易いものにした。

また、民俗編については、新たな視点から、人口が増加するなかで、民俗文化がどのように変化してきたかを述べたい。

小平の方言について、掲載することは出来ないのかとの意見がありましたが、今からの方言調査は無理である。11章の伝説・昔話・民謡のところで、「小平の言葉」というようなことで、見出しをつけて対応できないか検討したい。

質疑等： 近現代編と地理・考古・民俗編との内容の重複はあるのか。

監修者： 歴史の中で、同じものを違う角度から見るため、重複することはない。

質疑等： 災害についてどのように記述するのか。

委員： 関東大震災の時の史料が出てきたため、立川断層、南関東地震、風水害を含めた自然災害の章を設けたい。

事務局： 関東大震災についての史料が出てきた。都市部からの疎開は、関東大震災が始まりであることが分かった。また、土木関係の史料が見つかり、関東大震災に橋梁の橋桁が外れるなどの被害があったことが判明した。

副委員長： 以上の内容で確認していただきました。

(3) 「小平市史料集 第5集」の目次(案)について

事務局： 小平市史料集 第5集の目次(案)について説明。基本的には、通史編の目次を内容で作成したい。

タイトルは、本編執筆のために収集した史料を掲載するため、「小平の近現代基礎史料」とした。

質疑等： なし

副委員長： 小平市史料集 第5集については、目次(案)で作成を。